

新緑の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部会員の皆様には益々ご清福の段、大慶に存じます。また日頃より皆様には当支部運営に際し格段のお力添えを賜り、改めて深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第です。

さて先月は各部隊の観桜会などの自衛隊関連行事が数多く、席を温める暇もなく飛び回り1日が都城駐屯地、6日は新田原基地の観桜会に参加致しましたが、盛りはとうに過ぎていました。

しかし各部隊の皆様の手厚いもてなしに例え桜花は無くとも心は満たされ、ほろ酔い加減で帰路に就く頃、酔眼朦朧の中で満開の桜を見たのはやはり酒のせいだったのでしょうか。(笑)

また8日は横須賀の武山駐屯地に所在する高等工科学校64期生徒入校式に出席し、320名の若桜から沢山の元気を頂いて来ましたが、今年は宮崎県からも9名の生徒が入校し、3年後には全員と一緒に卒業できるよう、私も精一杯サポートする所存です。

そして22日は北熊本駐屯地開設61周年記念式典が晴天の下盛大に開催され、第8機甲師団に改編されたお披露目と、隷下の第42即応機動連隊に配備された16式機動戦闘車が威風堂々の行進及び、離島奪還を状況とする迫力満点の模擬戦闘を眼前で展開してくれました。

陸上総隊の新設や相之浦駐屯地所在の水陸両用西普連と共に、鎮西の要として第8師団の責任は益々重くなり、南九州に住む我々はその事の重大さを再認識せねばならぬと考えます。

さて4月27日に開催された南北朝鮮首脳等の平和宣言が大きなニュースになっていますが、異なる視点からの小川先生のメルマガを転載しますので、是非ともご一読下さい。

・トランプ任せで拉致問題は解決するのか？

4月27日の南北首脳会談、5月下旬から6月上旬に開かれる予定の米朝首脳会談に向けて、拉致問題についての日本側の動きも慌ただしくなっています。

しかし、安倍晋三首相が拉致問題解決をアピールするほどに、拉致被害者の側からも疑問視する声や反発が生まれています。

蓮池透さん「司令塔？この期に及んで」首相発言を批判

「北朝鮮による拉致被害者の救出を求める集会で、安倍晋三首相がした発言を、拉致被害者家族の蓮池透さん(63)が批判し、話題となっている。蓮池さんによると、『言葉と行動がかけ離れている』との思いからの発言という。

安倍首相は22日、拉致被害者家族会や支援団体『救う会』が開いた『国民大集会』に出席し、『南北、米朝首脳会談の際に拉致問題が前進するよう、私が司令塔となって全力で取り組む』と語った。この発言に対して蓮池さんは23日、ツイッターで『司令塔？ この期に及んで。どうやって？』と書き込んだ。

蓮池さんは2002年に帰国した拉致被害者・薫さん(60)の兄。21日にTBSが放送した『報道特集』では、首相が訪米し日米首脳会談に臨んだことについて『わざわざアメリカまで行ってトランプ大統領にお願いするというのは、自分たちがお手上げということの裏返しなわけですよ。それじゃまずいと思うし、トランプさんが拉致問題を取り上げてどういうふうにするのか、全くわからない』と発言している。

蓮池さんに話を聞いた。『(中略)米朝会談で、約束通りトランプ氏は拉致問題を持ち出すかもしれないが、金正恩(キムジョンウン)氏に「あれは解決済み」と言われたらどうするのか。(中略)そして『首相は「司令塔」と言うからには、きちんと自分で北朝鮮に向き合い、情報を収集して相手を研究して取り組んでほしい』と念を押した。(編集委員・北野隆一)(4月23日付朝日新聞)

22日の「国民大集会」では、退席する安倍首相に対して「なんだ、もう帰るのか」「最後まで席にいろよ」とヤジが飛んだと言います。

蓮池さんとは少し違う角度からですが、私もずっと日本政府の拉致問題に対する姿勢には疑問を抱き、問題点を指摘してきました。

最も大きな問題は、まともな国ならやるであろう情報収集ができていないという点です。

世界の情報専門家の間では、「情報は、それを取りに行ったり、分析する側のレベルに応じたものしか手に入らない」とされています。

そこにおいては、情報を読み取る能力を備えることが基本的な作業となります。

拉致問題の場合、「美味しそうな情報」を持ちかけてくる「怪しげな脱北者」などに振り回されるのではなく、韓国政府の協力を得て、同じ脱北者でも韓国にいる2万人ほどの人々に対してローラーをかけるように丹念に聞き取りを重ねていくのです。

その場合、日本政府の職員を使ってはなりません。形だけの聞き取りに終わってしまう恐れが強いからです。

そうならないためには、例えば新聞記者のOBでチームを編成し、根掘り葉掘り粘り強く聞いていくのです。もちろん、きちんとした報酬を支払います。

新聞記者のOBのチームが5組あれば、同じ脱北者に5回の聞き取りを行います。

この作業をする中で、99%の情報が「石ころ同然」ということも明らかになるでしょうし、その一方で、「希望を持てる情報」や**新たな情報収集のための手がかり**が手に入る可能性が生まれてくるのです。

かつて韓国政府の情報機関KCIA(現在の国家情報院)で**北朝鮮問題を担当**していた高官は、**拉致問題への日本政府の姿勢にあきれ顔**を隠しませんでした。

「韓国にいる**脱北者**の多くは、いったん**外国を経由**して入国してきた人たちです。この人たちは、滞在していた国で日本についての情報にも接しており、**拉致問題についてのどういう情報であれば日本人が飛びつくのか、特に日本のテレビ局が金を出すのか、学習しています。嘘つきが少なくない**と思うべきなのです」

「そうした脱北者の情報を徹底的に**ふるいにかける作業は、情報活動の基本**なのです。できることなら、外国を経由しないで**直接、韓国に逃げ込んできた人**に丹念な聞き取りを行い、外国経由の脱北者の情報の**真偽**を見分ける目安にするべきです。この気の遠くなるような作業を重ねて始めて、『よい情報』と『悪い情報』の輪郭も浮き彫りになってきますし、北朝鮮との交渉が可能になるのです」

「いまさら聞き取り？」などと言わないでいただきたい。たとえ拉致問題の解決につながらなくても、**日本の情報収集能力を高め、それが将来的に日本の平和と安全を保障する確かな基盤**をなるのであります。以上

いままで世界を欺いてばかりの北朝鮮の平和宣言ですから、例え同胞でも当然眉唾もので韓国首脳も聞いているとは思いますが、次ぎに開催される米朝会談はタフネゴシエーターのトランプさんがお相手なので、北朝鮮がどのような態度を見せるのか本当に興味は尽きません。

また小川先生が指摘されるようにこの「拉致問題」も日本政府自ら知恵を出し、汗を流してこそ解決できるものであり、国防と同様に全て米国任せでは当事者能力が疑われます。

国家が国民の生命や財産を守ってくれるからこそ我々は納税をする訳で、**国家がそれを放棄したら国民国家は成立せず、尤も現憲法のお陰で我が日本国は崩壊寸前**です。

そこで日本再生のためにも、先月お知らせした5月3日開催の「**憲法改正セミナー**」に是非ともご参加下さるよう、重ねてご案内申し上げます。

平成30年5月1日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦